

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
国語表現	農業食品科 グリーン環境科 社会福祉科・3年	3	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 国語表現（大修館書店） <input type="checkbox"/> 副教材 国語表現 基礎練習ノート（大修館書店） <input type="checkbox"/> 問題集 現代の語彙力向上の壺（尚文出版）
------	---

科目の目標		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準</p> <p>【表現力を支える知識を身に付けることができた】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ①書く力②話す・聞く力</li><li>③言語運用力④情報活用力</li><li>⑤情報収集の方法それぞれについて課題に取り組み、正確に記述しながら理解を深めている。</li><li>・ 言葉によって表現するために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。</li></ul>	<p>B 評価の規準</p> <p>【知識を生かし、自ら考えることができた】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 作文やスピーチ原稿、手紙、レポート等を身に付けた知識を生かして考えようとしている。</li></ul> <p>【考えたことを表現することができた】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 知識を生かして自ら考えたことを書いたり、書いたものを発表したりすることができている。</li></ul> <p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 目的や場に応じて情報を収集、整理して、内容を検討している。</li><li>・ 相手の反応や場の状況に応じて言葉を選び、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。</li><li>・ 仲間の話をしっかりと聞き、仲間と協力して取り組もうとする姿が見られる。</li></ul>	<p>B 評価の規準</p> <p>【主体的・意欲的に学習に取り組むことができた】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「国語表現の授業を通して自己の表現力を鍛え、進路活動や将来に生かす」という目標を持ち、学習内容に興味を持って意欲的に取り組む姿が見られる。</li><li>・ 課題を提出日までに不備のない状態で提出している。</li><li>・ 学習や活動に積極的に取り組み、仲間との対話を通して共に表現力を高め合おうとする姿が見られる。</li></ul>
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時 数	学習項目
4	言葉と出会う	2	・言葉と表記 ・整った文を書く
		2	・相手に応じた言葉遣い
		1	・わかりやすい文を書く ・文のつなぎ方
5	伝える、伝え合う	5	・自己紹介ゲーム ・言葉のストレッチ体操
		5	・絵や写真を見て書く ・マイニュース記事を書こう
6	自己PRと面接	3	・自分を見つめて
		3	・効果的な自己PR
		4	・将来の自分を考えよう
7		3	・志望理由を書こう ・自己推薦書や学修計画書を書く
		3	・面接にチャレンジ
8		2	・グループディスカッションをしよう
9	小論文・レポート入門	6	・小論文とは何か ・反論を想定して書く
		6	・レポートを書く ・論文を書くために
10	メディアを駆使する	6	・通信文を書き分ける
		6	・電話を使いこなす
11		6	・電子メールを活用しよう ・ネット社会との付き合い方 ・ネットを活用した情報収集
		4	・メディアと情報
12	会話・議論・発表	3	・相手や場面に応じた会話
		2	・建設的な議論の進め方
		3	・スピーチをしよう
1		3	・プレゼンテーションの工夫

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
歴史総合	農業食品科3年 グリーン環境科3年 社会福祉科3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 詳述歴史総合（実教出版） <input type="checkbox"/> ノート 詳述歴史総合マイノート（実教出版）
------	---

科目の目標		
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代史の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%



評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>【知識】</b></p> <p><b>B 歴史的事象に関する用語を知っている。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要語句や重要事項を答えたり、その内容を説明したりすることができる。</li> </ul> <p><b>A 歴史的事象を概念として理解することができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習ったことを一般化できる形に抽象化して整理したり説明することができる。</li> </ul> <hr/> <p><b>【技能】</b></p> <p><b>B 提示された資料から必要な情報を読み取ることができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提示された年表や地図その他の図表、史料などの資料から、必要な情報を読み取ることができる。</li> </ul> <p><b>A 適切な資料を選び、必要な情報を読み取ることができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年表や地図その他の図表、史料などから、適切な資料を選び、必要な情報を読み取ることができる。</li> </ul>	<p><b>【思考】</b></p> <p><b>B 習った歴史的事象を他の事柄にあてはめることができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象化した既習事項と別の歴史的事象との構造的な共通点を見出すことができる。</li> </ul> <p><b>A もとの事柄とあてはめた事柄とを比べることができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の事柄を、共通する構造で捉えて、さらなる共通点を推測したり時代や地域を含む様々な条件に起因する相違点などを挙げたりして整理することができる。</li> </ul> <hr/> <p><b>【判断】</b></p> <p><b>B 歴史的事象に関する判断基準を把握できている。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その事柄に関する課題は何か、その課題に対して誰がどのような考え方を持っているかについて整理することができる。</li> </ul> <p><b>A 歴史的事象について価値判断を行うことができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際起きた出来事等が、誰にとってどのような意味があったのか、それぞれの立場から説明できる。</li> </ul> <hr/> <p><b>【表現】</b></p> <p><b>B 歴史的事象について自分の考えを述べることができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習った内容を比較したり価値判断を行ったりしたことをもとにして自分の考えを述べることができる。</li> </ul> <p><b>A 歴史的事象についての自分の考えを、適切な方法で表すことができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章や年表、地図その他の図表などを用いて、他者に効果的に伝えることができる。</li> </ul>	<p><b>【自己調整学習・粘り強い取り組み（学習方法）】</b></p> <p><b>B 学習の振り返りを行うことができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの学び方を振り返り、改善しようとすることができる。</li> </ul> <p><b>A 振り返りをもとに、学び方を継続的に改善することができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの学び方を振り返り継続的に改善することができ、その成果が、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点の成績にも表れている。</li> </ul> <hr/> <p><b>【自己調整学習・粘り強い取り組み（学習の深まり）】</b></p> <p><b>B 自分で問いを立てることができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問に感じた点やさらに深めたい部分などを自分で見つけ、問いを立てることができる。</li> </ul> <p><b>A 自分とのつながりや現代の諸問題を意識した問いを立てることができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的事象と自分や現代の諸問題とのつながりに興味を向けることができ、それらを深めるための問いを立てることができる。</li> </ul>

学習計画

月	単元	時数	学習項目
4	歴史の扉 第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動	2 1 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代化への問い</li> <li>・ヨーロッパの海外進出と市民社会</li> <li>・清の繁栄</li> <li>・東アジア諸国間の貿易</li> <li>・江戸時代の日本の対外政策</li> <li>・江戸時代の社会と生活</li> </ul>
5	第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イギリス産業革命</li> <li>・アメリカ独立革命</li> <li>・フランス革命とナポレオン</li> <li>・ウィーン体制</li> <li>・19世紀のイギリスとフランス</li> <li>・イタリア・ドイツの統一</li> <li>・東方問題と19世紀のロシア</li> </ul>
6	第3章 アジアの変容と日本の近代化	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカの発展と分裂</li> <li>・世界市場の形成</li> <li>・イスラーム世界の改革と再編</li> <li>・南アジア・東南アジアの改革と再編</li> <li>・アヘン戦争の衝撃</li> <li>・ゆらぐ幕藩体制</li> <li>・開国</li> </ul>
7		6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幕末政局と社会変動</li> <li>・新政府の成立と諸改革</li> <li>・富国強兵と文明開化</li> <li>・近代的な国際関係と国境・領土の画定</li> <li>・自由民権運動の高まり</li> <li>・立憲国家の成立</li> </ul>
9	第4章 帝国主義の時代	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帝国主義と世界分割</li> <li>・帝国主義期の欧米諸国</li> <li>・条約改正</li> <li>・日清戦争</li> <li>・日露戦争から韓国併合へ</li> <li>・日本の産業革命と社会問題</li> <li>・アジア諸民族の独立運動・立憲運動</li> <li>・近代化と現代的な諸課題</li> </ul>

10	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大衆化への問い</li> <li>・緊迫する国際関係</li> <li>・第一次世界大戦</li> <li>・ロシア革命とシベリア出兵</li> <li>・大戦景気と米騒動</li> <li>・ヴェルサイユ体制とワシントン体制</li> <li>・西アジア・南アジアの民族運動</li> </ul>
11	第6章 経済危機と第二次世界大戦	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東アジア・東南アジアの民族運動</li> <li>・戦間期の欧米</li> <li>・ひろがる社会運動と普通選挙の実現</li> <li>・政党内閣の時代</li> <li>・世界恐慌</li> <li>・ファシズムの時代</li> </ul>
12		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満州事変と軍部の台頭</li> <li>・日中戦争</li> <li>・第二次世界大戦とアジア太平洋戦争</li> <li>・戦争と民衆</li> <li>・敗戦</li> </ul>
1		6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際連合と戦後世界</li> <li>・戦後と占領の始まり</li> <li>・民主化と日本国憲法</li> <li>・冷戦の開始</li> <li>・朝鮮戦争と日本</li> <li>・国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題</li> </ul>
2	第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化  第8章 多極化する世界	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化への問い</li> <li>・冷戦対立の推移</li> <li>・植民地の独立と第三世界の出現</li> <li>・米ソ両陣営の動揺</li> <li>・日本の国際社会復帰と高度経済成長</li> <li>・石油危機と世界経済</li> <li>・緊張緩和から冷戦の終結へ</li> </ul>
3	第9章 グローバル化と現代世界	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域協力の進展</li> <li>・日本の経済大国化</li> <li>・冷戦体制の終結</li> <li>・地域紛争と世界経済</li> <li>・グローバルな認識へ</li> <li>・現代的な諸課題の形成と展望</li> </ul>

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
数学A	農業食品科 3年 グリーン環境科3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 新高校の数学A（数研出版） <input type="checkbox"/> 問題集 ポイントノート数学A（数研出版）
------	---

科目の目標		
<p>（１）図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>（２）図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。</p> <p>（３）数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>図形の性質を系統的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。図形の性質が論理的に正しいことを的確に表現することができる。</p> <p>整数に関する概念などと人間の活動の関わりについて、数学的な見方で理解することができる。</p>	<p>図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を見出し、論理的に考察することができる。</p> <p>人間の活動について、整数の性質で学んできたことをもとに考察しようとする。</p>	<p>三角形や円など図形の性質に関心を持つとともに、それらの有用性を認識し、問題の解決に活用しようとする。</p> <p>人間の活動を理解するために、数学を活用しようとする。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> [わかった・できた] ・学習内容を暗記するのではなく、図形や文字などから概念として理解できる。 ・練習問題などの演習に自ら取り組み、立式から計算まで完結して解答できる。	<b>B 評価の規準</b> [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・発展的な問題にも学習した知識を組み合わせ、論理的に考察して解法を表現できる。	<b>B 評価の規準</b> [粘り強さ] ・課題に計画的に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、短期・中期の課題を解決していくことができる。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	就職試験対策・基礎学力向上対策	3	・問題演習
5	就職試験対策・基礎学力向上対策	5	・問題演習
6	就職試験対策・基礎学力向上対策	7	・問題演習
7	就職試験対策・基礎学力向上対策	8	・問題演習
8	図形の性質	2	・平面図形の基本
9	図形の性質	5	・角の二等分線と線分の比 ・三角形の外心・内心・重心 ・円周角の定理
10	図形の性質	5	・円に内接する四角形   ・円の接線 ・方べきの定理
11	数学と人間の活動	7	・約数と倍数   ・ユークリッドの互除法
12	数学と人間の活動	7	・方程式を満たす整数   ・2進法
1	数学と人間の活動	2	・分数と小数
2			
3			

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
化学基礎	3年A・G科	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 化学基礎（数研出版） <input type="checkbox"/> サポートノート 化学基礎（数研出版）
------	--

科目の目標		
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成すること。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての観察、実験などを行うことを通して、物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けさせる	物質とその変化を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得させるとともに、報告書を作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力を育てる。	物質とその変化に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> [わかった・できた] ・【まとめと練習】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・授業プリントなど説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、 <u>適切にメモに残している</u> 。	<b>B 評価の規準</b> [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・【探究の問い】や【作業】で仲間と協力して取り組み、 <u>自分や班の考えを記述できている</u> 。 ・教師から仲間との確認の指示があった場合は、 <u>仲間のサイン</u> を受けている。	<b>B 評価の規準</b> [観察・実験] 様々な探究の過程を通して科学の方法を学び、化学的に探究する能力と態度を育てようとするものであり、化学に対する興味や関心も、しっかりとした目的意識をもって行う観察、実験によって一層高めることができる。 [自分なりの工夫] ・授業プリントに教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりする。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	1 章 物質の構成	1	物質の分類と性質
		2	物質と元素
5	1 章 物質の構成	2	物質と元素
		2	物質の三態と熱運動
6	1 章 物質の構成	1	原子の構造
		3	イオンの生成
		1	元素の周期表
7	2 章 物質と化学結合	2	イオン結合とイオン結晶
		3	イオン結合からなる物質
8			
9	2 章 物質と化学結合	3	共有結合と分子
		3	分子間力と分子結晶
10	2 章 物質と化学結合	3	共有結合からなる物質
		3	金属結合と金属結晶
		3	金属

11	3 章 物質の変化	2	原子量と分子量・式量
		2	物質質量
		2	溶液の濃度
		2	化学反応式
12	3 章 物質の変化	3	酸と塩基
		3	酸と塩基の分類
		3	水素イオン濃度と p H
1	3 章 物質の変化	3	中和と塩
		3	酸化と還元
2	3 章 物質の変化	2	酸化剤と還元剤
3	3 章 物質の変化	3	科学技術と化学



## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
体育	3年 AGW 科	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（教科書） <input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（ノート）
------	--

科目の目標		
体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な課題解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通して技術の名称や実践、ルールやマナーを理解しようとしている。</li> <li>・課題解決法、練習法、試合法を理解しようとしている。</li> </ul>	<b>B 評価の規準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時の振り返りシートに反省を記入し、自己評価をしようとしている。</li> <li>・互いに助け合い、教えあい、高め合おうとしている。</li> <li>・役割を積極的に引き受け事故の責任を果たそうとしている。</li> </ul>	<b>B 評価の規準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備運動の声出し、活動時の周囲への声掛け、準備・片付けを積極的に行おうとしている。</li> <li>・活動の目的を理解し、実践しようとしている。</li> <li>・他者と協力して周囲に配慮をしようとしている。</li> <li>・健康・安全を確保しようとしている。</li> <li>・授業に積極的に参加しようとしている。</li> </ul>
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、スキルテスト、体育理論で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	ダンス 体づくり運動	6 3	現代的なリズムのダンス 体ほぐし運動 体の動きを高める運動 実生活に生かす運動の計画
5	球技（選択①）	8	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
6	球技（選択①）	6	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン
7	球技（選択②） 体育理論	6 2	□バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール  生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを推進する取り組み 豊かなスポーツライフの創造
8	球技（選択②）	2	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
9	球技（選択②） 球技（選択③） 体育理論	4 4 2	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール

			生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを推進する取り組み 豊かなスポーツライフの創造
10	球技（選択③）	8	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
11	陸上競技（長距離走）	8	20分間走・4キロ走
12	陸上競技		20分間走・4キロ走
1	球技（選択④） 体育理論	6	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
		2	生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを推進する取り組み 豊かなスポーツライフの創造

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
英語コミュニケーションⅡ	農業食品科3年 グリーン環境科3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> VISTA English Communication II (三省堂)
------	---

科目の目標		
<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの Lesson において、新しく学習する文法事項や、これまで学習した文法事項の表現に注意しながら、内容を理解する技能を身に付けている。</li> <li>文章の趣旨を考えながら、その内容について詳しく話して伝える技能を身に付けている。</li> <li>文章の内容について基本的な語句や文を用いて、詳しく書いたりする技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章についての概要や要点、必要な情報を、聞き取って捉えている。</li> <li>文章の趣旨を考えながら、その内容について詳しく話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。</li> <li>文章の内容について基本的な語句や文を用いて、詳しく書いて伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章についての概要や要点、必要な情報を、主体的に聞き取って捉えようとしている。</li> <li>理解を深めるために、文章の趣旨を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。</li> <li>文章の趣旨を考えながら、その内容について主体的に詳しく話して伝えようとしている。</li> <li>文章の内容について基本的な語句や文を用いて、主体的に詳しく書いて伝えようとしている。</li> </ul>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> <b>〔文法理解〕</b> ・文法について理解しており、プリントやノート等に適切にまとめている。 <b>〔話すこと、書くこと〕</b> ・本文の内容について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話したり、書いたりして伝える技能を身につけている。	<b>B 評価の規準</b> <b>〔話すこと〕</b> ・本文の内容について、情報や考え、気持ち等を論理的に伝えたり、話したりしている。 <b>〔書くこと〕</b> ・本文の内容について、情報や考え、気持ち等を論理的に書いて伝えている。	<b>B 評価の規準</b> <b>〔書くこと〕</b> ・本文の内容について、話し手に配慮しながら、主体的に話を聞き、聞いた内容をプリントやノート等に適切にまとめている。 <b>〔読むこと、話すこと〕</b> ・本文の内容について、聞き手に配慮しながら、主体的に書かれていることについて読んだり、話したりしている（発音練習、発表などが含まれます）。 ※眠っている人や私語が多く周囲の学習の妨げになる人はC評価となります。
※「知識・技能」は、定期考査や単元テストで主に判断します。 ※「思考・判断・表現」は、定期考査やスピーキングテスト等で主に判断します。		
成果や内容が特に顕著な場合は A評価 とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	オリエンテーション	1	・学習の進め方の説明 ・シラバス及び Can-Do リストの提示
5	LESSON 7 Martial Art on Tatami	6	Section1 ～ 3 ・競技かるたについての対話から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 ・関係代名詞の非制限用法／関係代名詞 what の使い方を確認する。
		1	Lesson まとめ ・競技かるたについて読んだ内容について、書いて要点をまとめたり、聞いて確認したりする。
		2	ALT との活動
6	LESSON 8 Biologging	6	Section1 ～ 3 ・バイオロギングについての発表から、概

7			要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 ・分詞構文／強調構文の使い方を確認する。
		1	Lesson まとめ ・バイオロギングについての発表を読んだ内容について、書いて要点をまとめたり、聞いて確認したりする。
		3	ALT との活動
		2	スピーキングテスト
8 ・ 9	ENJOY READING! 1 The Open Window	6	・ナトル氏と登場人物のやり取りで進む物語から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。
		1	Lesson まとめ ・ナトル氏と登場人物のやり取りで進む物語について、続きを想像しながら、考えを書いたり、それを話して伝えたりする。
		2	ALT との活動
10	ENJOY READING! 2 The Christmas Truce	6	・第一次世界大戦におけるクリスマス休戦の文章から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。
		1	Lesson まとめ ・文章について、クリスマス休戦が私たちに伝えるメッセージを考えながら、考えを書いたり、それを話して伝えたりする。
		2	ALT との活動
11	ENJOY READING! 3 My Dream	6	・宇宙飛行士の野口聡一さんの夢に関する文章から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。
		1	Lesson まとめ ・文章に関連して、子どもの頃の将来の夢について、書いたり話して伝えたりする。
		2	ALT との活動
		2	スピーキングテスト
12 ・ 1	ENJOY READING! 4 The Restaurant of Many Orders	6	・『注文の多い料理店』の物語から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。
		1	Lesson まとめ ・『注文の多い料理店』の物語について、感想を書いたり、話して伝えたりする。

		1	ALT との活動
--	--	---	----------



## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
課題研究	農業食品科	4	

使用教材	<input type="checkbox"/> 共通様式プリント <input type="checkbox"/> 配布プリント
------	--

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
30%	40%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・身についた] ・農業の各分野について体系的・系統的に理解することができた。 ・関連する技術を身に付けることができた。	B 評価の規準 [PDCA学習ができた・発表や卒論ができた] ・農業に関する課題を発見することができた。 ・農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探求することができた。 ・科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養うことができた。	B 評価の規準 [積極的に行動できた・外部の意見を取り入れた] ・課題を解決する力の向上を目指して自ら学ぶことができた。 ・農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。
※定期考査は実施しない。 ※記録ファイル・まとめレポート・製品・発表会・卒論等を主に、3観点を評価する。		
顕著な成果・内容の場合は A 評価とし、成果・内容が不十分な場合は C 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	・授業アンケート、導入	4	・プロジェクト学習の手順を理解することができる。
5	・地域の課題	4	・地域の課題を考えることができる。
	・課題設定	4	・課題を発見して設定することができる。
6	・研究開始	16	
	・計画 ・調査 栽培・飼育調査、商品調査 ・実施 栽培・飼育管理、 製造実習（実験）など ・データ入力・整理・記録など 試食・販売等 アンケート調査など		・研究計画を立案することができる ・研究対象の栽培・飼育方法、商品調査することができる。 ・適切な栽培及び飼育管理、製造実習ができる。 ・客観的にわかるように記録ができる。 ・データから表やグラフの作成ができる。 ・研究成果を発表することができる。 ・主体性や実行力を発揮できる。

7		16	
8		4	
9		16	
10		16	
	▼		
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ</li> <li>・実験場（圃場等）の片付け</li> <li>・実験室（冷蔵庫等）の片付け</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結果の分析や研究のまとめができる。</li> </ul>
		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究の片付けができる。</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究発表に向けての原稿、スライド作成</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究成果について原稿やスライドにまとめることができる。</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究発表会</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究成果を聴衆の前で発表することができる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文作成</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究成果を卒業論文にまとめることができる。</li> <li>・プロジェクト学習は今後の社会生活でも活用できることを理解できる。</li> </ul>
2			
3			

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
総合実習（担い手類型）	農業食品科・3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 各専攻で配付されるプリント <input type="checkbox"/> 日本農業技術検定3級テキスト・問題集 <input type="checkbox"/> 農業鑑定競技
------	--

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> [わかった、できた] ・よりよい栽培や飼育を実現するための <u>知識を備えている</u> 。 ・その時間の実習の目的を理解し、 <u>適切な管理実習ができる</u> 。 ・黒板・話の内容、自分の感想や疑問点などを <u>メモに残している</u> 。	<b>B 評価の規準</b> [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・よりよい栽培や飼育について <u>考えることができる</u> 。 ・授業や実習を通して疑問を持ち、 <u>質問したり記録用紙に記入したりしている</u> 。 ・その時間、得た知識や学んだことを <u>説明できる</u> 。	<b>B 評価の規準</b> [気づき、理解しようとする態度] ・座学や実習を通した気づきがあり、 <u>話したり記録したりすることができる</u> 。 ・理解するために行動できる（ <u>質問する、調べる</u> ）。 [実習態度] ・安全に気を付けて取り組むことができる（身だしなみ、返事、声掛け、授業準備等）。 ・丁寧かつ効率よく実習を進めることができる（時間の管理、周囲への配慮、協力等）。
※「知識・技能」、「思考・判断・表現」は、定期考査で主に評価します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
年間	各専攻の科目と関連した栽培・飼育管理	28	各専攻における専門技術総合実習、経営管理総合実習の実施。当番研修への参加（時間外総合実習）
4	学校農業クラブ活動 ・目的及び目標 ・農業鑑定競技	4	○学校農業クラブ各種競技及び学習活動の計画と目標設定
5	プロジェクト学習の実践 ・プロジェクト学習のテーマ設定 ・プロジェクト学習の準備	2	○PDCA サイクルの理解、課題設定によるテーマの決定
	プロジェクト学習の実践	2	○年間を通した課題解決型学習
6	農業技術検定 ・3級取得のための学習	4	○農業技術検定3級取得のための学習

7	農業技術検定 ・ 3 級取得のための学習	2	○テキストを使用し、農業技術検定 3 級取得のための学習
	プロジェクト学習の実践	2	○年間を通した課題解決型学習
8			
9	プロジェクト学習の実践	2	○年間を通した課題解決型学習
10	プロジェクト学習の実践	2	○年間を通した課題解決型学習
11	プロジェクト学習の実践	2	○年間を通した課題解決型学習
	プロジェクト学習の実践	2	○発表するためのスライドや資料をわかりやすく制作する。
12	プロジェクト学習の実践	10	○発表するためのスライドや資料をわかりやすく制作する。
	・ 発表スライドの作成		
	・ 学習資料のまとめ		
1	プロジェクト学習の実践 ・ 学習成果発表準備 ・ 学習成果発表 ・ 振り返りとまとめ	4	○学習発表準備と学習発表の実践

令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
総合実習	農業食品科（食品科学類型）・3 年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 食品製造（実教出版） <input type="checkbox"/> 配布プリント
------	--

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5 0 %	3 0 %	2 0 %

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・身についた] ・農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解することができた。 ・関連する技術を身に付けることができた。	B 評価の規準 [PDCA学習ができた] ・農業に関する総合的な課題を発見することができた。 ・農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養うことができた。	B 評価の規準 [積極的に行動できた・班員の意見を取り入れた] ・農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学ぶことができた。 ・農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。
※定期考査 （１学期中間・期末考査、２学期期末考査） ※レポート・実習成果・発表を主に３観点を評価する。		
顕著な成果・内容の場合は A 評価とし、成果・内容が不十分な場合は C 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	食品包装の目的と種類	4	食品包装の目的と種類について理解することができる
5	加工食品の表示制度	4	加工食品の表示制度について理解することができる
	麦味噌の製造	2	麦味噌の製造ができる
6	トマトピューレの製造	2	トマトピューレの製造ができる
	トマトケチャップの製造	2	トマトケチャップの製造ができる
7	フランスパンの製造	2	ソフトフランスパンの製造ができる
	ジャムを利用したパンの製造	2	ジャムパンや渦巻きパンの製造ができる
8	ブルーベリーの加工	2	ブルーベリージャムの製造ができる
9	ブルーベリーの加工	2	ブルーベリーパイの製造
	鶏卵の加工	2	鶏卵の特性と加工原理を理解できる
	鶏卵の加工	4	鶏卵の加工食品について理解することができる



10	鶏卵の加工	2	マヨネーズの製造ができる
	鶏卵の加工	2	ラングドシャの製造ができる
	鶏卵の加工	2	プリンの製造ができる
	鶏卵の加工	2	カステラの製造ができる
11	ハム類の製造	2	プレスハムの製造ができる
	ハム類の製造	2	ソーセージの製造ができる
	ハム類の製造	4	ベーコンの製造ができる
12	食品製造における機械と装置の利用	2	食品製造における機械と装置の利用について理解することができる
	品質管理	4	品質管理の意義を考え、それに必要な教育や施設設備について理解することができる
1	作業体系	2	安全で高品質な食品をつくるための要点をについて理解することができる
2			
3			

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
野菜	農業食品科・3年	4	

使用教材	<input type="checkbox"/> 野菜（実教出版） <input type="checkbox"/> プリント
------	--

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> [わかった、できた] ・よりよい野菜栽培を実現するための知識を備えている。 ・その時間の実習の目的を理解し、適切な管理実習ができる。 ・黒板・話の内容、自分の感想や疑問点などをメモに残している。	<b>B 評価の規準</b> [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・よりよい野菜栽培について考えることができる。 ・授業や実習を通して疑問を持ち、質問したり記録用紙に記入したりしている。 ・その時間、得た知識や学んだことを説明できる。	<b>B 評価の規準</b> [気づき、理解しようとする態度] ・座学や実習を通した気づきがあり、話したり記録したりすることができる。 ・理解するために行動できる（質問する、調べる）。 [実習態度] ・安全に気を付けて取り組むことができる（身だしなみ、返事、声掛け、授業準備等）。 ・丁寧かつ効率よく実習を進めることができる（時間の管理、周囲への配慮、協力等）。
※「知識・技能」、「思考・判断・表現」は、定期考査で主に評価します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	・野菜とプロジェクト学習	2	○プロジェクト学習について
	・野菜の栽培環境と生育調節	2	■野菜苗の栽培と販売
	・果実を利用する野菜の栽培	2	■メロンの栽培（ガラス温室）
5	・育苗の目的と方法	4	○野菜苗の育苗方法 ■野菜苗の栽培と販売
	・生育特性と栽培環境の調節技術	2	○野菜の栽培環境と生育調節
	・果実を利用する野菜の栽培	8	■メロンの栽培（ガラス温室） ■イチゴの栽培（雨よけハウス）
6	・果実を利用する野菜の栽培	8	■メロンの栽培（ガラス温室） ■イチゴの栽培（雨よけハウス）
	・育苗技術の実際と応用	8	○つぎ木育苗技術 ○栄養系苗生産とバイオテクノロジー
7	・安全・安心な野菜（GAP）	4	○農業生産工程管理（GAP）について

			○環境にやさしい野菜栽培
	・果実を利用する野菜の栽培	8	■メロンの栽培（ガラス温室） ■イチゴの栽培（雨よけハウス）
8	・果実を利用する野菜の栽培	4	■トマトの栽培（ガラス温室）
9	・葉や花茎を利用する野菜の栽培 ・根を利用する野菜の栽培	8	■ハクサイ、ブロッコリーの栽培 ■ダイコンの栽培
	・果実を利用する野菜の栽培	8	■トマトの栽培（ガラス温室） ■イチゴの栽培（ガラス温室）
10	・葉や花茎を利用する野菜の栽培 ・根を利用する野菜の栽培	8	■ハクサイ、ブロッコリーの栽培 ■ダイコンの栽培
	・生育特性と栽培環境の調節技術	4	■トマトの栽培（ガラス温室）
	・果実を利用する野菜の栽培	4	■イチゴの栽培（ガラス温室）
11	・果実を利用する野菜の栽培	4	■トマトの栽培（ガラス温室）
		4	■イチゴの栽培（ガラス温室）
	・野菜の流通と経営改善	4	○野菜の流通と鮮度保持 ○野菜生産の課題
	・プロジェクト学習のまとめ	4	○報告のまとめ
12	・果実を利用する野菜の栽培	4	■イチゴの栽培（ガラス温室）
	・野菜の流通と経営改善	2	○野菜の流通と鮮度保持 ○野菜生産の課題
	・プロジェクト学習のまとめ	2	○報告のまとめ
1	・野菜生産の基礎	4	■イチゴの栽培（ガラス温室）
	・プロジェクト学習のまとめ	4	農業学習のまとめ

## 令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
草花	農業食品科 3 年	4	

使用教材	草花（実教出版）
------	----------

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、草花の生産と経営に必要な資質・能力を育成する。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に着けるようにする。	草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的活用動的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 0 %	3 0 %	3 0 %

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> [わかった・身についた] ・草花の生産と経営について体系的・系統的に理解することができている。 ・生産性や品質の向上に向けた草花の栽培技術を身に付けることができている。	<b>B 評価の規準</b> [よく考え・意見を持ち・表現することができた] ・草花の生産と経営に関する課題を発見することができている。 ・学んだことや疑問に感じたことなど、自らの考えを言葉や文章で表現することができている。	<b>B 評価の規準</b> [積極的に行動できた・協働することができた] ・草花分野に興味・関心を持ち、学習や研究に意欲的に取り組むことができている。 ・草花の栽培について、生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう主体的・協働的に取り組むことができている。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	草花の生育と環境	2	シュートの成長と光合成
	花壇用草花の栽培（実習）	4	春の花苗栽培（育苗）
	花鉢もの（実習）	6	シクラメンの栽培（育苗）
5	草花の生育と環境	2	花序や花芽の分化と発達
	花壇用草花の栽培（実習）	4	花壇づくり（春～夏）
	花鉢もの（実習）	6	シクラメンの栽培（肥培管理）
6	切り花生産の特色	2	切り花生産の経営と栽培の特色、切り花の種類と特性
	観葉植物	2	観葉植物の種類と特性
	花鉢もの（実習）	8	シクラメンの栽培（鉢替え）
7	鉢ものの生産資材と商品化技術	2	わい化技術
	花鉢もの（実習）	6	シクラメンの栽培（病虫害防除）
8	花壇用草花の栽培（実習）	4	秋の花苗栽培（播種）
9	鉢ものの生産資材と商品化技術	2	消費段階での品質管理、用途と商品化技術
	花壇用草花の栽培（実習）	4	秋の花苗栽培（育苗）
	花鉢もの（実習）	6	シクラメンの栽培（ホルモン処理）

10	花鉢もの	2	シクラメン
	花鉢もの（実習）	4	プリムラの栽培（播種）
	花鉢もの（実習）	6	シクラメンの栽培（葉組み）
11	草花の生産と経営	2	経営目標と経営計画、生産工程の管理
	花壇用草花の栽培（実習）	4	花壇づくり（秋～冬）
	花鉢もの（実習）	6	シクラメンの栽培（調整と出荷）
12	草花の生産と経営	2	流通と販売、地域環境に配慮した草花生産
	ユニバーサル農業の視点	2	
	卒業論文のまとめ	4	
	花鉢もの（実習）	4	シクラメンの栽培（冬季管理）
1	卒業論文のまとめ	4	

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
畜産	農業食品科3年	4	

使用教材	<input type="checkbox"/> 実教出版「畜産」
------	-----------------------------------

科目の目標		
<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、家畜の飼育と畜産経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家畜の飼育や畜産物の生産と畜産経営に関するプロジェクト学習を通して、家畜の生理・生態や生育環境などの家畜の飼育に必要な知識と技術、家畜及び畜産物の生産計画、管理、評価などの畜産経営に関する知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けるようにする。	家畜の飼育や畜産物の生産と畜産経営に関して、生産技術や生産工程、経費や流通・販売方法などの生産や経営に関する課題を発見し、地域の畜産経営の実践事例や畜産が果たす社会的な意義と役割などを踏まえるとともに、環境への配慮や法令遵守など、職業人に求められる倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を養う。	家畜の飼育や畜産物の生産と畜産経営の学習を通して、畜産が人々の生命の維持に直結し、豊かな食生活を提供するという社会的な役割を担っていることを理解し、品質と生産性の向上を図るとともに、安全で安心できる家畜の飼育と畜産経営を目指し、その振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
30%	30%	40%



評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・身についた] ・草花の生産と経営について体系的・系統的に理解することができた。 ・生産性や品質の向上に向けた家畜の飼育技術を身に付けることができた。	B 評価の規準 [よく考え・意見を持ち・表現することができた] ・家畜の生産と経営に関する課題を発見することができた。 ・学んだことや疑問に感じたことなど、自らの考えを言葉や文章で表現することができた。	B 評価の規準 [積極的に行動できた・協働することができた] ・畜産分野に興味・関心を持ち、学習や研究に意欲的に取り組むことができた。 ・家畜の飼育について、生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう主体的・協働的に取り組むことができた。
※「知識・技」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	肉用牛の特性	4	肉用牛の特性・調査方法を理解させプロジェクト学習の重要性を認識させる。
	肉用牛の体・性質	4	肉用牛の品種を理解させる。
	子牛の管理	4	
	繁殖牛の管理	4	
5	肉用牛の生産生理	6	消化器の構造と役割について理解させる。
	子牛・繁殖牛・肥育牛	4	子牛の管理方法と肥育様式について理解させる。
	粗飼料の利用	4	飼料作物の特性と原野の牧草の特性と肉用牛との関連を理解させる
	濃厚飼料	4	
6	繁殖生理と交配分娩	6	卵胞の発達と生殖器の構造と発情とホルモンとの関係を理解させる。
	繁殖のしくみと交配	6	繁殖牛の個体管理について理解させる
7	妊娠と分娩	6	人工授精の方法と妊娠診断法について理解さ

			せる。
	繁殖障害と対策	4	分娩介助をとおして分娩と生命の重要性について理解させる。
	バイオテクノロジー利用	4	
8	肉用牛の飼養技術	6	肉用の発育段階に応じた適切な飼養管理理解する。
9	子牛の飼育	4	人工授精技術を理解させる。
	雌育成と繁殖牛の飼育	4	子牛の飼育管理、育成雌牛、成雌牛の飼養管理技術を理解させる。
	経営	4	離乳除角去勢の目的と実施方法について理解させる
10	肥育牛の生理と飼育技術	6	肉用牛の飼養管理方法と肉質格付け方法を理解させる。
	肥育方式	4	
11	飼料とその配合	4	飼料作物の栽培方法と生育特性を理解させる。
	自給飼料の利用	4	牛舎環境が肉用牛の飼養管理にとって重要な因子であることを理解させる
	飼育形態と施設	4	
	衛生と病気	4	
12	ふん尿の処理と利用	4	糞尿の有効利用方法について理解させる。
	経営と改善	4	経営の形態とその特徴を理解させる。
			GAP 認証とその意義について理解される。
1	プロジェクトのまとめ	8	肉用牛に関するプロジェクト学習のまとめかたや発表評価方法について理解させる
2			
3			

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
農業経営	農業食品科（担い手育成類型）・3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 「農業経営」（実教出版）
------	---

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、農業経営とマーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

<p>B 評価の規準</p> <p>〔わかった・身についた〕</p> <p>・農業経営について<u>体系的・系統的に理解することができた。</u></p>	<p>B 評価の規準</p> <p>〔よく考え・意見を持ち・表現することができた〕</p> <p>・農業経営に関する課題を<u>発見することができた。</u></p> <p>・農業や農業関連産業に携わる者として<u>合理的かつ創造的に解決することができた。</u></p>	<p>B 評価の規準</p> <p>〔積極的に行動できた・協働することができた〕</p> <p>・農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるように<u>自ら学ぶことができた。</u></p> <p>・農業の振興や社会貢献に<u>主体的かつ協働的に取り組むことができた。</u></p>
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	会計のマネジメント	2	2 年次の学習の振り返り
	リスクのマネジメント	1	農業経営がかかえるリスク
		1	リスク・マネジメントの方法
		2	【演習】リスクにかかわる情報収集・分析・対策
5	農業マーケティングの概要	1	マーケティングの導入
		3	農産物の市場と流通
		1	マーケティングとフードチェーン農業
		2	【グループ討議】農業にマーケティングは必要か
6	農業のマーケティング戦略	2	マーケティングの内容と手順
		3	農業のマーケティング活動
		2	社会課題と農業マーケティング
7	農産物のブランド化	2	ブランドの意味とブランド化
		3	農産物のブランド化戦略
8	農産物のブランド化	2	1 学期の復習
9	農産物のブランド化	2	【演習】農業高校における農産物ブランド
		2	【グループ討議】阿蘇地域のブランド戦略
		2	【グループ討議】本校農産物のブランド化の必要性
10	市場調査と環境分析	2	市場調査の内容と手順
		2	環境分析の内容と手順
	市場調査と環境分析	2	【演習】湧穂祭での市場調査の計画
	市場調査・環境分析の進め方	2	市場調査・環境分析の進め方

11	市場調査・環境分析の進め方	2	【演習】湧穂祭での市場調査の実施
		4	【演習】湧穂祭での市場調査の集計・解析
		2	【演習】マーケティングを活用した経営戦略の検討
12	農業経営の設定と診断	2	農業経営設計とは
		2	農業経営診断の進め方
		2	経営診断の指標と進め方
1	学習のまとめ	3	2年間の学習のまとめ

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
植物バイオテクノロジー	農業食品科・3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 植物バイオテクノロジー（実教出版） <input type="checkbox"/> プリント
------	---

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、植物に関するバイオテクノロジーを農業の各分野で活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
植物バイオテクノロジーについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	植物バイオテクノロジーに関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	植物バイオテクノロジーについて特質を理解し、農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> [わかった・できた] ・ワークシートや課題に対して内容を理解して取り組み、適切な解答ができる。	<b>B 評価の規準</b> [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・課題を解決するために自らの考えを、科学的な根拠を用いて説明できた。	<b>B 評価の規準</b> [粘り強さ] ・学習課題に自ら取り組み、内容も学習のように沿っている。 [自分なりの工夫] ・教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりするなど、独自の工夫及び記述がある。
※ 定期考査では、主に「知識・技能」「思考・判断・表現」を判断します。		※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	植物バイオテクノロジーの意義と役割		
	・バイオテクノロジーとは	4	生物の機能とバイオテクノロジー
	・歴史とあゆみ	4	バイオテクノロジーの歴史とあゆみ
5	・人間社会とバイオテクノロジー	8	農業とバイオテクノロジー
			産業とバイオテクノロジー
			環境調和とバイオテクノロジー
6	植物バイオテクノロジーの基礎		
	・植物とは何だろう	4	いろいろな生物、いろいろな植物
	・植物のからだ	4	植物体のなりたち、植物細胞の構造と働き
7	・植物の細胞分裂と分化	4	細胞の分裂、分化と植物ホルモン
	・植物の生殖と遺伝	4	植物の生殖、遺伝のしくみ、遺伝子
8			
9	植物組織培養の基礎		
	・組織培養とは	4	組織培養とは、組織培養の目的
	・組織培養の方法	4	組織培養の手順
10	・組織培養の施設と機器・器具	4	施設、機器・器具
	・安全管理	4	器具の取り扱い、薬品の取り扱い

11	植物組織培養の実際	8	共生培養と無菌播種
			茎頂培養
12	細胞融合と遺伝子組換え	4	細胞融合とは、遺伝子組換えとは 遺伝子組換え作物の安全性と実用化における課題
	バイオマスの利用	4	バイオマスとは、バイオマスの役割 資源としてのバイオマス
1	植物バイオテクノロジーの成果と展望	4	農業における植物バイオテクノロジーの成果



令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
食品製造	農業食品科（食品科学類型）・3年	4	

使用教材	<input type="checkbox"/> 食品製造（実教出版） <input type="checkbox"/> 配布プリント
------	--

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品製造に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・身についた] ・食品製造について体系的・系統的に理解することができた。 ・関連する技術を身に付けることができた。	B 評価の規準 [PDCA学習ができた] ・食品製造に関する課題を発見することができた。 ・農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養うことができた。	B 評価の規準 [積極的に行動できた・班員の意見を取り入れた] ・食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学ぶことができた。 ・農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。
※定期考査 （1学期中間・期末考査、2学期期末考査） ※レポート・実習成果・発表を主に3観点を評価する。		
顕著な成果・内容の場合はA評価とし、成果・内容が不十分な場合はC評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	発酵食品の特徴と種類	4	発酵食品の特徴と種類について理解することができる
	みその製造	4	みその製造について理解することができる
	しょうゆの製造	4	しょうゆの製造について理解することができる
5	みその製造	6	麦味噌の製造ができる
	みその製造	4	手前味噌の製造ができる
	酒類の製造	4	酒類の製造について理解することができる
6	牛乳の加工	4	牛乳成分の特徴と加工特性について理解することができる
	牛乳の加工	4	乳製品の特徴と加工原理について理解することができる
	牛乳の加工	2	酸乳飲料の製造ができる
7	牛乳の加工	2	果汁入り酸乳飲料の製造ができる
	牛乳の加工	2	アイスクリームの製造ができる
8	ブルーベリージャムの製造	4	ブルーベリージャムの製造ができる

9	牛乳の加工	4	ヨーグルトムースの製造ができる
	牛乳の加工	2	杏仁豆腐（ソースかけ）の製造ができる
	肉類の加工	8	肉の種類とその選び方について理解することができる
10	肉類の加工	8	プレスハムの製造ができる
	肉類の加工	8	ソーセージの製造ができる
	肉類の加工	8	ベーコンの製造ができる
11	肉類の加工	2	ピザの製造ができる
	肉類の加工	8	腸詰めソーセージの製造ができる
12	肉類の加工	2	ホットドッグの製造ができる
	ケーキの製造	6	デコレーションケーキの製造ができる
1	求肥の製造	2	フルーツ大福の製造ができる
2			
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
食品化学	農業食品科（食品科学類型）・3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 食品化学（実教出版） <input type="checkbox"/> 配布プリント
------	--

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品の成分と栄養価値の利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品化学について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食品化学に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食品化学について食品の成分と栄養を理解し、農業の各分野で応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・身についた] ・食品化学について体系的・系統的に理解することができた。 ・関連する技術を身に付けることができた。	B 評価の規準 [わかった・身についた] ・食品化学について体系的・系統的に理解することができた。 ・関連する技術を身に付けることができた。	B 評価の規準 [積極的に行動できた・班員の意見を取り入れた] ・食品化学について食品の成分と栄養を理解し、農業の各分野で応用できるよう自ら学ぶことができた。 ・農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。
※定期考査 （1学期中間・期末考査、2学期期末考査） ※レポート・実験成果・発表を主に3観点を評価する。		
顕著な成果・内容の場合はA評価とし、成果・内容が不十分な場合はC評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	無機質（ミネラル）	4	食塩の定量実験（モール法）ができる
	食品成分の消化と吸収	2	食品成分の消化と吸収について理解することができる
5	脂質	4	乳化作用について理解することができる
	脂質	2	アクロレイン反応実験ができる
6	脂質	2	ヨウ素価実験ができる
	おもな栄養素の代謝	4	おもな栄養素の代謝について理解することができる
7	脂質	4	脂質の定量（ソックスレー抽出法）ができる
	栄養改善と健康	2	栄養改善と健康について理解することができる
8			
9	食品の栄養的価値とその評価	4	食品の栄養的価値とその評価について理解することができる

10	ビタミン	2	ビタミンAの定性実験（カルプライス反応）ができる
	ビタミン	2	ビタミンCの定性実験（イソジン液）ができる
	ビタミン	4	ビタミンCの定量実験（インドフェノール滴定法）ができる
11	食品群別の成分と栄養	2	食品群別の成分と栄養について理解することができる
	微量成分	4	Feの定量実験（過マンガン酸カリウム容量法）ができる
12	微量成分	4	Caの定量実験（過マンガン酸カリウム容量法）ができる
1	食品の衛生検査	4	食品衛生管理の方法について理解することができる
2			
3			

## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
食品微生物	農業食品科・3年 (食品科学類型)	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 食品微生物（実教出版） <input type="checkbox"/> 配付プリント
------	---

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品微生物の利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品微生物について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食品微生物に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に課題を解決する力を養う。	食品微生物について特質を理解し、農業の各分野で利用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> [わかった・身についた] ・食品微生物について体系的・系統的に理解することができた。 ・関連する技術を身に付けることができた。	<b>B 評価の規準</b> [P D C A学習ができた] ・食品微生物に関する課題を発見することができた。 ・農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養うことができた。	<b>B 評価の規準</b> [積極的に行動できた・班員の意見を取り入れた] ・食品微生物について特質を理解し、農業の各分野で利用できるよう自ら学ぶことができた。 ・農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。
※定期考査では、主に「知識・技能」「思考・判断・表現」を判断します。		
顕著な成果・内容の場合はA評価とし、成果・内容が不十分な場合はC評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	微生物の代謝と酵素	6	微生物の代謝とその利用、微生物の酵素
5	酵母の分離と培養	6	アルコール生産酵母の分離と培養
6	酵母の分離と培養	8	アルコール生産酵母の分離と培養
7	酵母の分離と培養	6	酵母の同定
8	酵母の分離と培養	2	酵母の同定
9	細菌の分離と培養	8	納豆菌の分離と培養
10	細菌の分離と培養	8	乳酸菌の分離と培養
11	細菌の分離と培養	8	酢酸菌の分離と培養
12	微生物の利用と検査の実践	6	食品の微生物検査
1	微生物利用の発展	2	微生物の改良による物質生産、微生物によるバイオマスの有効利用、固定化生体触媒を利用した物質生産
2			
3			



## 令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
食品流通	農業食品科・3年 (食品科学類型)	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 食品微生物（実教出版） <input type="checkbox"/> 配付プリント
------	---

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品の流通とマーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品流通について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食品流通に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食品流通の合理的な管理とマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>B 評価の規準</b> [わかった・身についた] ・食品流通について体系的・系統的に理解することができた。 ・関連する技術を身に付けることができた。	<b>B 評価の規準</b> [PDCA学習ができた] ・食品流通に関する課題を発見することができた。 ・農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養うことができた。	<b>B 評価の規準</b> [積極的に行動できた・班員の意見を取り入れた] ・食品流通の合理的な管理とマーケティングが経営発展へつながるように自ら学ぶことができた。 ・農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。
※定期考査では、主に「知識・技能」「思考・判断・表現」を判断します。		
顕著な成果・内容の場合はA評価とし、成果・内容が不十分な場合はC評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	食品の品質と規格	6	食品の品質と安全性、品質と品質保証
5	食品の品質と規格	6	規格、表示と検査
6	食品の品質と規格	8	食品流通と包装、食品の変質と品質保持
7	食品の物流	6	物流の仕組みと働き、食品の輸送
8	食品の物流	2	食品の保管、情報処理と物流情報システム
9	食品マーケティング	8	マーケティングとは何か、マーケティングの発展
10	食品マーケティング	8	マーケティング戦略の手法、食品マーケティングの実際
11	市場調査	8	市場調査・環境分析
12	市場調査	6	マーケティング戦略の策定
1	市場調査	2	マーケティングの実践と評価
2			
3			

令和 7 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
地域資源活用	農業食品科・3 年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 地域資源活用（実教出版） <input type="checkbox"/> プリント
------	--

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域資源の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域資源の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 0 %	3 0 %	3 0 %

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・身についた] ・地域資源の活用について体系的・系統的に理解することができた。	B 評価の規準 [よく考え・意見を持ち・表現することができた] ・地域資源の活用に関する課題を発見することができた。 ・学んだことや疑問に感じたことなど、自らの考えを言葉や文章で表現することができた。	B 評価の規準 [積極的に行動できた・協働することができた] ・地域資源の活用について興味・関心を持ち、学習や研究に意欲的に取り組むことができた。 ・地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び農業の振興や社会貢献に主体的・協働的に取り組むことができた。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	地域資源活用とは		
	・地域資源とその活用	4	移り変わる農山村への眼差し
		4	地域資源と地域資源活用とは
5	・地域資源活用とプロジェクト学習	8	プロジェクト学習とは
			地域資源活用におけるプロジェクト学習
6	農山村社会の変化と地域振興		農山村の現状と変化、都市の変化と対応
	・農山村の現状と変化	4	農山村・都市の連携と SDG s
		4	農業・農村の多面的機能と地域活性化
7	・地域活性化に向けた施策・取組	4	地域社会の現状と課題
		4	地域づくりとは
8			
9	地域資源活用の意義と役割	4	地域資源の魅力
	・地域資源の魅力と価値	4	地域資源の発見・保全とその活用
10		4	農山村の景観、文化と人
	・地域振興に向けた施策と取組	4	農山村における方策、都市における方策

			人づくりにおける方策
11	地域資源の価値と活用	8	
	・ 地域資源の見つけ方と活用		地域資源の発見・活用・評価のサイクル
	・ 観光への活用		都市と農山村の共生・対流 グリーンツーリズムの特徴 エコツーリズム
12	・ 商品開発への活用	4	商品開発とは、商品開発の実施
	・ サービス業への活用	4	直売所・農家レストラン 市民農園・観光農園
1	・ 教育・福祉への活用	4	教育への活用、福祉への活用